

成田市文化財審議会会議録（令和4年度第1回）

- 1-1 開催日時 令和4年10月20日（木） 午後1時30分から午後4時30分
1-2 開催場所 成田市花崎町760番地
成田市役所5階 503会議室

2 出席者

- （委員）小倉博委員長、木村修副委員長
濱島正士、宮下陽祐、吉岡秀樹、高木博彦、白井久美子各委員
（事務局）関川教育長、小川担当次長、野村生涯学習課長
中山副参事、米澤係長、井出副主査、小泉副主査

3-1 成田市文化財審議会委員長あいさつ

3-2 成田市教育委員会教育長あいさつ

4 議事

4-1 令和4年度の文化財関係事業について

概要

令和4年度の文化財関係事業および予算について説明

質疑応答

特になし。

4-2 埋蔵文化財の照会状況、発掘調査について（令和4年3月～令和4年8月）

概要

照会された件数は全86件で、埋蔵文化財の包蔵地に含まれていたのは28件だった。

事業ごとの内訳について、例年どおり個人住宅・集合住宅に伴う照会が多くなっている。

教育委員会で実施した市内遺跡発掘調査は3件。

高岡一の沢遺跡では、古墳時代土坑1基が確認され、古墳時代土師器が出土した。昨年度第1回の文化財審議会でも報告した、剣形石製模造品や白玉が出土した場所と隣接しており、県道下総一江戸崎線（現・成田下総線）の整備事業に伴う昭和51年の調査では、未成品を含む有孔円板や剣形石製模造品が出土していることから、高岡一の沢遺跡は祭祀遺跡の可能性が指摘されているが、今回

の調査では遺跡の性格を特定する手掛かりは得られなかった。

台方井戸花あわ山遺跡では40 m²という調査範囲の中で、奈良・平安時代の土坑7基、竪穴式住居跡8軒、溝状遺構1条が確認され、奈良・平安時代土師器が出土した。近隣では平成26年に確認調査が実施され、今回の調査と同様に奈良・平安時代の土坑2基、住居跡4軒、また炉穴が2基確認されており、一体に奈良・平安時代の集落が広がっていたと考えられる。

郷部南台遺跡では縄文時代の土坑58基、炉穴1基が確認され、縄文時代土器が出土した。炉穴が1基出土していることから縄文時代住居の出土も想定し調査を行ったが、検出されなかった。調査前は碎石敷きの駐車場であり、駐車場造成の際についてと思われる重機の爪の跡が残っており、遺構が一部影響を受けていた。

なお、1の高岡一の沢遺跡および2の台方井戸花あわ山遺跡については、事業内容から遺跡の保存が可能と判断し、保存協定を締結したため本調査は実施していない。

千葉県教育振興財団が実施した発掘調査は、2件。

大安場Ⅲ遺跡(3)では旧石器時代の石器出土地点が1か所、縄文時代の陥穴1基が確認され、旧石器時代の石器および縄文土器が出土した。

十余三四本木Ⅰ遺跡(4)では旧石器時代の石器出土地点が3か所確認され、旧石器時代石器及び縄文時代土器が確認された。

大安場Ⅲ遺跡(3)は圏央道の新設工事、十余三四本木Ⅰ遺跡(4)は成田国際空港の機能拡張に伴う調査である。

また、印旛郡市文化財センターによる調査は実施されなかった。

質疑応答

特になし。

4-3 その他

大野屋旅館の解体について

令和3年11月～令和4年3月頃まで解体工事が行われ、4月に現状変更完了届が所有者より提出された。6月に文化庁の文化審議会で諮問にかけられ、登録文化財から抹消する答申が出た。

次回の開催について

令和5年3月を予定。

5 視察

5-1 上福田岩屋古墳(市指定候補)

概要

上福田岩屋古墳は令和元年 5 月に房総のむらにより石室の発掘調査が行われた。この発掘調査により石室内に堆積していた土砂が取り除かれ、石室の床を三分割にする仕切石が確認された。これは、真ん中は通路、両脇は遺体を置く部分と考えられる。他にも、入り口部分が二段構造になっていることや、床面にも壁面や天井部と同様に貝化石が混ざる砂岩が使用されていることも確認された。これらの調査結果から、上福田岩屋古墳は極めて希少であり、学術的にも価値の高い石室を有することが分かったため、専門家から今後は市指定にして保護、保存をしていくべきとの提案があった。この提案を受け文化財審議委員会の中で、発掘調査行い周溝の位置を確定させたいうえで、古墳全体を指定するという案も出ていたが、発掘調査を行ってからの時間がかかってしまうため、石室の保護という観点からも、墳丘の指定を優先すべきとの提言があった。これを受け、まずは墳丘を指定し、周溝などは発掘調査を実施したのち追加で指定するという方向性が決定した。

指定をするには、土地の所有者の許可が必要になるが、墳丘部分である上福田 407 番に関しては区の共有地であることから、上福田区長に市指定について説明を行い、上福田区の方の承諾を得ることができた。今後は、市指定に向け、次回の文化財審議委員会で諮問にかける予定である。

質疑応答

特になし。

5-2 三里塚小学校赤煉瓦門(国登録有形文化財候補)

概要

三里塚小学校の正門にある赤煉瓦門は旧陸軍鉄道連隊駐屯部隊宿舍の門と考えられ、宿舍地から移築されたものである。現在も児童の入退門として使われているが、煉瓦積みの門の老朽化や耐震性が疑問視された。歴史的価値もある建造物であるため、外観の変更を最小限に抑えつつ、令和元年に補強工事を行った。

今年度中に文化庁の調査官が実査に訪れる予定である。

質疑応答

特になし。

5-3 貴賓館、防空壕

概要

令和元年の台風により貴賓館の屋根が一部破損し、今年度、修復が完了したため隣接する防空壕と併せ見学した。

質疑応答

事務局 ①修理後の形状について②外観について③防空壕について

濱島委員 ①現在貴賓館の茅葺き屋根は、裾部が内側に湾曲しているが、通常は直線的に葺かれるものである。残されている写真等を参考にして、当時の屋根の形状を検証する必要がある。

②創建時のオリジナルの姿が残されていない。特に裏側は白ペンキ塗りの洋風の造りに改造され、茅葺き屋根の洋館といったものになっている。

③保存状態もよく、皇室の防空壕として貴重なものと考えられる。